

Rotary  あすかロータリークラブ
Asuka Rotary Club Weekly Bulletin

RI 会長 : K. R. "Ravi" Ravindran

地区ガバナー : 中澤 忠嗣

会長 : 澤 光彦 エレクト : 吉川 隆博

副会長 : 松中 久 幹事 : 森下 秀城

クラブ会報委員長 : 富士川拓也

Vol. 25 No. 33 (No. 1180) 2016 年 3 月 3 日発行

前回のニコニコ ¥32,000	全期会費預かり分 ¥1,665,000	今年度累計 ¥2,773,500
--------------------	------------------------	---------------------

第 1180 回 2016 年 3 月 3 日 (木)

ひな祭り例会

～チーム ASUKA & あすか RC～

1179 回報告 2016 年 2 月 25 日 (木)

於 : 榎原ロイヤルホテル

ソング

「我等の生業」

ソングリーダー 鍵谷 安利君

出席報告

	全会員	免除者	出席者	MU	出席率%
第 1179 回	54	24	39 (15)	5	97.78
第 1177 回	54	24	43 (18)	3	95.83

ニコニコ

久保真須夫君 本日は、地区委員として最後の卓話です。ポリオ撲滅にご協力をお願い致します。

仲川 和馬君 C グループ・D グループの情報集会の皆様、お店のご利用ありがとうございました。

和田 修志君 結婚祝いのお花束、誕生日プレゼントありがとうございました。

植田 俊應君 結婚記念日の花束ありがとうございました。

会長挨拶

○会長挨拶のネタもそろそろ尽きてまいりました。なので、今日は近況を報告致します。2月21日(日)、奈良第2グループによる「音楽を楽しむ会」が榎原文化会館大ホールで開催されました。小・中学生の演奏では父兄等がたくさん鑑賞に来られてましたが、肝心の榎原市吹奏楽団、榎原交響楽団の演奏では観客はほとんどまばらでした。次回からは演奏順位についても観客の動向なども考慮に入



春よ こんにちは(o^)/ 於:山の辺の道 撮影者:井上重行

れて決めないといけないと思います。また 23 日(火)には、榎原夢の森フェスティバルの反省会が榎原オークホテルで開かれました。そこで、今回はよりスムーズな進行が図れるようにといろいろな意見が出され、次年度に引き継ぐべく議論されました。我々の活動についても事業のあとには反省の場が必要だと痛切に感じられました。ぜひ次年度からは反省会を開かれることをおすすめします。

幹事報告

○ロータリークラブ創立 111 周年について

○ひな祭り例会について

○3 月度理事会について

委員会報告

○クラブ広報委員会

富士川委員長

週報訂正の件

次回の例会

「情報集会発表会」

「ポリオプラスについて」



国際ロータリー
第 2650 地区
2015-2016 年度
ポリオプラス委員会
久保真須夫委員

ロータリーの 6 つの重点分野

今年度からロータリーの特別月間に、「ロータリーの 6 つの重点分野」に関する月間が新設されました。

1. 基本的教育と識字率向上 (9 月)
2. 経済と地域社会の発展 (10 月)
3. 疫病予防と治療 (12 月)
4. 平和と紛争予防/紛争解決 (2 月)
5. 水と衛生 (3 月)
6. 母子の健康 (4 月)

4 つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

2015-16年度ロータリー財団の優先項目

2015年7月1日に始まる3年間のロータリー財団の優先項目が提案されました。

優先項目1：永久にポリオを撲滅する

具体的目標

- A. 野生ポリオウイルスによる新たな発症例をなくす。
- B. 毎年3500万ドルのポリオ撲滅への寄付を確保し、ドイツ財団のチャレンジに応える。
- C. ポリオ撲滅におけるロータリーの役割について周知する。
- D. 他の人道的プログラムにも同じようなアドボカシーを取り入れる事を視野にポリオ撲滅におけるロータリーによるアドボカシーを見直す。

優先項目2：ロータリー財団に対するロータリアンの知識・参加・寄付を向上させる。

優先項目3：財団の補助金と6つの重点分野を通じて、ロータリーの人道的奉仕の質と影響を高める。

優先項目4：ポリオプラスにおける成果と「世界でよいこと」をしてきた100年の歴史に特に注目し、財団によるこれまでの実績に対するイメージと認識を高める。

- ポリオプラスのプラスとは
はしか・ジフテリア・破傷風・百日ぜき・結核の5つの病気を指していたが、今ではポリオの発症を監視するための研究所や診療所の巨大な世界的ネットワークができ、他のウイルス感染症の状況を監視できるようになったのと、撲滅活動の過程で得られた恩恵や知識等を「プラス」と呼んでいます。
- ポリオは人の口から入ったウイルスが腸の中で増えることで経口感染し、感染者からの排泄物など、さまざまな経路で経口感染する。
成人が感染することもあるが、5歳以下の幼児の罹患率が高く90%以上。
ポリオウイルスに感染しても多くの場合、発症せずに知らない間に免疫が出来る。
しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺が現れ、一生残ってしまうことがある。
一旦この病気にかかると、特効薬などの確実な治療法は無く、残された身体機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われる。
- 日本では昭和35年(1960年)にポリオ患者が5千人を

超え、大流行しましたが、翌年1961年からワクチンによる予防接種が実施され、昭和55年(1980年)の1例を最後に、野生のポリオウイルスによる新たな患者は出ていませんが、生ワクチンの接種により100~200万人に1人の割合で手足に麻痺が出る方がいて、平成22年(2010年)には4人の方が生ワクチン接種後に麻痺が発症しております。

- 生ワクチンとはポリオウイルスの病原性を弱めて作ったものです。
日本ではポリオウイルスを殺し、免疫を作るのに必要な成分を取り出した「不活化ワクチン」を1961年から使用する予定であったが、日本製不活化ワクチンは十分な免疫がつかず不合格となり、生ワクチンによる接種となった。
再び不活化ワクチンによる予防接種が始まったのは平成24年(2012年)9月1日から。
- ロータリーがポリオの撲滅に取り組みだしたのは1979年からで、フィリピンで生後3ヶ月から36ヶ月の子供、6000人に対し、5ヵ年計画で活動を始めました。
ポリオプラス計画が始まったのは1985年で、その後1988年に、WHO・RI・米国疫病対策センター(CDC)・ユニセフとの間で世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)が立ち上げられ、今ではビル&メリンダ・ドイツ財団もメンバーに加わっています。
その結果、1988年世界125カ国で年間35万人が感染していたが、2015年には74件の発症となっています。
- 現在、ポリオ常在国は、パキスタン・アフガニスタンの2カ国のみですが、これらの国々は今も政治、社会的な理由で予防接種が困難であったり、資金不足により足踏み状態が続いているのが現状である。
 - ・パキスタンはアフガニスタン国境地やカラチが流行の中心であり、常在国の最も症例数が多く、2015年には54症例が報告。
 - ・アフガニスタンは紛争のため、アクセスが困難な地域が流行の中心で、2015年には20症例。
- 現在2013-18年ポリオ撲滅戦略計画が実行中で必要とされる資金は15億ドル不足しています。
前年度(2014/7/1~2015/6/30)に日本のロータリーが集めたポリオ寄付金は168万ドルで2650地区は6万8千ドルです。
本年度の中澤ガバナーより、1人2000円のポリオ・プラスへの寄付の要望があります。
皆様のご協力をお願いいたします。